



# Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムのインストールおよびアップグレードのテスト

この章では、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の電源投入方法と、インストールおよびアップグレードのテスト方法について説明します。次の項で構成されています。

- [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムの電源投入 \(P.5-2\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムのインストールまたはアップグレードのテストについて \(P.5-3\)](#)
- [循環検索を使用した T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの着信コールテスト \(P.5-4\)](#)
- [ダイヤリング シーケンスを使用した T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの着信コールテスト \(P.5-5\)](#)
- [T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの発信コールテスト \(P.5-6\)](#)
- [スケジューリングのテスト \(P.5-7\)](#)
- [記録される会議での会議テスト \(P.5-8\)](#)
- [アドホックの記録を使用した記録されない会議での会議テスト \(P.5-8\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のテスト \(P.5-8\)](#)
- [ネットワーク遅延のテスト \(P.5-9\)](#)

## Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムの電源投入

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムは初期化が完了するまで 5 ～ 10 分かかる場合があります。

### Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに電源を投入する

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の電源スイッチをオン（「I」）の位置に合わせます。Audio Server システムが初期化されるまで最大 10 分待機します。
- ステップ 2** ラップトップを Cisco Unified MeetingPlace に接続して、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server が正しく起動したことを確認します（ラップトップを接続および設定していない場合は、P.3-2 の「ラップトップの Cisco Unified MeetingPlace への接続」および P.3-3 の「ラップトップの設定について」を参照してください）。
- ステップ 3** Cisco Unified MeetingPlace Audio Server が起動しない場合は、次の手順を実行して、すべてのコンポーネントが固定されていることを確認します。
- a. すべてのカードがしっかりと取り付けられていることを確認します（Cisco Unified MeetingPlace 8112 の場合は、カードの下の青い LED ライトが点灯していないかどうかを確認します。青色のライトが点灯している場合、そのカードまたはトランジション モジュールは正しく取り付けられていません）。
  - b. 電源スイッチをオフ（「O」）の位置に合わせます。
  - c. すべての接続箇所が固定されていることを確認します。
  - d. すべてのコンポーネントが固定されていることを確認した後、電源投入の手順を繰り返します。この手順を 2 回試行しても Cisco Unified MeetingPlace Audio Server が正しく初期化されない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください（P.xv の「テクニカル サポート」を参照）。
- ステップ 4** Cisco Unified MeetingPlace のプロンプトで、ユーザ名とパスワードを入力します。デフォルトのユーザ名は admin で、デフォルトのパスワードは cisco です。次のメニューが表示されます。

```

user name: admin
Password:
Last login: Mon Aug 21 12:19:16 from Unknown-HostName
*****
*                               MeetingPlace (tm)                               *
*                               by Cisco Systems                               *
*                               *                                               *
*                               Copyright (c) 1993-2006 Cisco Systems, Inc.    *
*                               All rights reserved.                            *
*****
Conference server 5.4.0      S/N: not set
Mon Aug 21 14:32:03 PST 2006
meetingplace:tech$

```

Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) でコマンドを入力することができます。CLI コマンドについては、『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server コンフィギュレーションガイド』の付録「コマンドライン インターフェイス リファレンス」を参照してください。このマニュアルは、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html) で入手できます。



(注) Cisco Unified MeetingPlace では DNS をサポートしていないため、Cisco Unified MeetingPlace システムに最後にログインしたサーバ名は不明になります。

## Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムのインストールまたはアップグレードのテストについて

着信コールを確認するには、Cisco Unified MeetingPlace システムに接続された各トランクを直接選択する手段が必要です。ほとんどの PBX および局線トランクでは、各ポートを順番にアクセスする循環検索を使用するか、あるいは特別なダイヤリング シーケンスを使用して各トランクを選択します。

## 循環検索を使用した T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの着信コールテスト

循環検索を使用して T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの着信コールをテストする

**ステップ 1** CLI にアクセスします。



**ヒント** 端末のロギングをまだ有効にしていない場合は、先へ進む前に有効にします。ロギングについては、P.3-5 の「HyperTerminal セッションのロギング」を参照してください。

**ステップ 2** `spanstat span_number -all` と入力して **Enter** キーを押します。スパン番号に対してスパン 0 で開始し、各ポートをチェックしてからスパン 1 およびその他のアクティブ スパンに進みます。

**ステップ 3** システムのアクセス番号にダイヤルします。

**ステップ 4** `spanstat` コマンド出力を見て、コールを受信するポートを監視します。たとえば、次の T1 CAS スパン 0 のコードでは、ポート 1 がコールを受信しました。

```
meetingplace:tech$ spanstat 0 -ab
Span 0 (Card 0 Trunk 0) is up

 1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR TR
33 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
```

次の T1 PRI スパン 0 のコードでは、ポート 1 がコールを受信しました。

```
meetingplace:tech$ spanstat 0 -ab
Span 0 (Card 0 Trunk 0) is up

 1 2 3 4 5  6 7 8 9 0   1 2 3 4 5  6 7 8 9 0   1 2 3
                   10                   20
ii.....
```

次の E1 スパン 0 のコードでは、ポート 1 がコールを受信しました。

```
meetingplace:tech$ spanstat 0 -all
E1 Span 0 (ETI 0 Line A) is up

 1 2 3 4 5  6 7 8 9 0   1 2 3 4 5  6 7 8 9 0   1 2 3 4 5  6 7 8 9 0
                   10                   20                   30
ii.....
```



**(注)** `spanstat help` を入力すると、さまざまな接続形態に対応した文字コード定義およびシーケンスを決定できます。

**ステップ 5** 「Welcome to MeetingPlace」というプロンプトが再生されたら、**2** を押します。Cisco Unified MeetingPlace システムから「Enter your profile number」という応答があります。これによって、PBX とセントラル オフィスとの間の完全な双方向接続が確認されます。

- ステップ 6** 各ポートがテストされるまで、Cisco Unified MeetingPlace システムのアクセス番号にダイヤルします。

---

## ダイヤリング シーケンスを使用した T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの着信コール テスト

ダイヤリング シーケンスを使用して T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの着信コールをテストする

- ステップ 1** コールをピックアップするポートを管理するダイヤリング シーケンスについては、PBX 管理者に問い合わせてください。

- ステップ 2** ポートごとに 2 を押して、「Enter your profile number」プロンプトが再生されるのを確認します。これによって、PBX とセントラル オフィスとの間の完全な双方向接続が確認されます。



**ヒント** PBX の検索は番号の最も大きいポートから最も小さいポートの順に行うことを推奨します。

## T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの発信コール テスト

Cisco Unified MeetingPlace が PBX に接続されている場合は、PBX の内線に対する発信コール、およびパブリック ネットワークに対する発信コールをテストします。各ポート上でコールを発信します。PSTN 接続での発信コールもテストします。

### T1 CAS、T1 PRI、および E1 テレフォニーの発信コールをテストする

**ステップ 1** CLI にアクセスします。端末のロギングをまだ有効にしていない場合は、有効にします。

**ステップ 2** `activity` と入力します。次の例のように表示されます。

```
meetingplace:tech$ activity
VUI Configuration: 1152 Sessions, 1200 Confs

***      VUI  INTERNAL  STATUS  UTILITY      ***

DebugMenu:
  1) Quick Status of all Ports           4) Make Test Call
  2) Verbose Status of Port Range       5) Show All Confs
  3) Display complete Port Information   0) Quit
Enter the Command (0 -- 100):
```

**ステップ 3** テスト コールを発信するには、`4` と入力します。Cisco Unified MeetingPlace システムから宛先の電話番号の入力を求められます。

```
meetingplace:tech$ activity
VUI Configuration: 1152 Sessions, 1200 Confs

***      VUI  INTERNAL  STATUS  UTILITY      ***

DebugMenu:
  1) Quick Status of all Ports           4) Make Test Call
  2) Verbose Status of Port Range       5) Show All Confs
  3) Display complete Port Information   0) Quit
Enter the Command (0 -- 100): 4
You entered 4.
Enter destination for your call:
```



**(注)** 上記のコードは Cisco Unified MeetingPlace 8112 を対象とした場合の例です。Cisco Unified MeetingPlace 8106 の場合は、576 のセッションおよび 576 の会議が存在します。

**ステップ 4** ダイヤルする宛先の電話番号として、近くの電話の内線番号を入力します。特定のポートを指定するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

**ステップ 5** 指定することを示す `t` を入力します。ポートを範囲指定するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

**ステップ 6** 指定することを示す `t` を入力します。開始ポート番号の入力を求めるプロンプトが表示されます。

**ステップ 7** 最小の番号を入力します。終了ポート番号の入力を求めるプロンプトが表示されます。

**ステップ 8** 開始ポート番号よりも 10 または 20 ポート上のポート番号を入力します。テスト コールをグループ単位で行うかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。

- ステップ 9** 行わないことを示す **f** を入力します。コール間の遅延の入力を求めるプロンプトが表示されます。
- ステップ 10** 必要な遅延を入力します。電話機で呼び出し音が鳴ります。
- ステップ 11** 電話に応答して音声状態を確認します。**1** を押して、電話を切ります。このポートテストで問題ないことが、Telnet 画面で報告されます。電話機に次のポートからコールが発信されます。
- ステップ 12** 指定したグループ内のポートがすべてテストされるまで、**ステップ 11** を繰り返します。
- ステップ 13** 7 桁の番号を使用して (PBX に接続されている場合は 7 桁の番号に 9 を追加することが必要な場合もある) この手順を繰り返し、パブリック ネットワークにコールを発信します。
- ステップ 14** **activity** コマンドを終了するには、**0** を入力します。

## スケジュールリングのテスト



(注)

新規インストールの場合、MeetingTime および Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing はインストールされていないことがあります。スケジュールリングをテストするには、これらのアプリケーションをインストールしておく必要があります。

スケジュールリング機能のテスト時には **technician** としてログインします。スケジュールリング タスクは次のアプリケーションの場合と同じです。

- 電話によるボイス インターフェイスを使用する場合
- MeetingTime を使用する場合
- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を使用する場合
- Cisco Unified MeetingPlace for Outlook を使用する場合
- Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes を使用する場合

### スケジュールリングをテストする

- ステップ 1** 新しい会議をスケジュールできることを確認します。
- ステップ 2** 新しい会議に参加できることを確認します。
- ステップ 3** Cisco Unified MeetingPlace 通知オプションが有効になっている場合は、会議がスケジュールされたときに通知を受信できることを確認します。

## 記録される会議での会議テスト

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに記録が設定されている場合に、次の手順を実行します。

### 記録される会議で会議テストを行う

- 
- ステップ 1** 記録される会議をスケジュールします。
  - ステップ 2** 会議が記録されたことを確認します。
  - ステップ 3** 会議の終了後に、会議の記録が取得できることを確認します。
- 

## アドホックの記録を使用した記録されない会議での会議テスト

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに記録が設定されている場合に、次の手順を実行します。

### アドホックの記録を使用して、記録されない会議で会議テストを行う

- 
- ステップ 1** 記録を行わない会議をスケジュールします。
  - ステップ 2** 会議に参加し、**#61** を押して記録を有効にします。
  - ステップ 3** 会議が記録されたことを確認します。
  - ステップ 4** 会議の終了後に、会議の記録が取得できることを確認します。
- 

## Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のテスト

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing がインストールされている場合は、『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド*』を参照して機能チェックを実行します。このマニュアルは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) で入手できます。



## ネットワーク遅延のテスト

### ネットワーク遅延をテストする

**ステップ 1** CLI にアクセスして、`ping -s 1000 IP_address_of_another_machine_on_the_network` と入力します。「-s 1,000」引数は、1000 バイトのダミー データを他の IP アドレスに送信して、通常のネットワーク アクティビティをシミュレーションします。

**ステップ 2** いくつかの応答メッセージを受信したら、**Ctrl** キーを押した状態で **C** キーを押します。

応答がない場合、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムは指定されたマシンへのネットワーク接続を確立できません。IP アドレスを確認し、社内ネットワーク担当者にご相談ください。

**ステップ 3** パケット損失が 0% であることを確認します。

#### 例 5-1 ネットワーク遅延のテスト

```
meetingplace:tech$ ping -s 1000 172.20.19.25
--- Type <CTRL-C> to stop ---
PING 172.20.19.25 (172.20.19.25): 1000 data bytes
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=0 ttl=255 time=2.897 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=1 ttl=255 time=2.584 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=2 ttl=255 time=2.587 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=3 ttl=255 time=2.578 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=4 ttl=255 time=2.615 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=5 ttl=255 time=2.582 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=6 ttl=255 time=2.577 ms
1008 bytes from 172.20.19.25: icmp_seq=7 ttl=255 time=2.586 ms
^C
--- 172.20.19.25 ping statistics ---
8 packets transmitted, 8 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 2.571/2.603/2.897 ms
```

■ ネットワーク遅延のテスト